

教育交流で結城の高校生がタイで交流

公益財団法人「茨城国際親善厚生財団（IIFF）」とタイとの交流が広がり始まった教育交流で、結城市の高校生と先生の7人が8月2日から同10日の日程でタイを訪問し、高校などを視察するとともに、高校生や学校関係者たちと交流を深めました。タイを訪問したのは結城一高の新井康芳校長と2年のオレンシア・ジリアンさん、結城二高の早瀬昌良校長と若林明日香さん、鬼怒商業の島田一樹教諭と瀧田えいさん、箱守みずずさん。7人は、タイ北部のメーサイ市に到着し、メーサイ市役所やメーサイ病院、メーサイ高校などを訪問。4日目にはメーサイ市を拠点に麻薬撲滅を目的に活動しているドイトンプロジェクトを見学、麻薬博物館なども視察しました。5日目はパタヤピタヤコム校を訪問。パタヤ市長も駆け付けて一行を歓迎しました。両校では、英語や数学などの授業に出席したり、ダンスやタイ料理を教えてもらい、メーサイ校では建築科の実技も体験。

島田教諭は「タイは日本と比べ生徒が自由に授業を受けている」と話し、瀧田さんと箱守さんは「学校は大きく、施設が充実している。みんな親切だった」。早瀬校長は「実際に五感をフルに活用して幅広い体験ができた。タイの教育現場で日本パートナーズとして活躍する日本人教師や一生懸命日本語を学ぶ生徒の姿が印象的」と話し、若林さんは「麻薬博物館は人形などで麻薬の悲惨さを訴えていた。高校生たちとの交流がとても印象的で、ホームステイもしたいと思った」。「日本は島国で国境がなく、河沿いに2つの国が見える日本にない風景に出会った。そしてタイの人の優しさに触れた」。オレンシアさんは英語が得意で、「母国はフィリピンで、ほかの国をもっと知りたいと思った。タイの歴史や麻薬を撲滅するために尽くした王母様のことを知った。今回タイに行った経験から、将来は海外に行ってボランティアなどをしていきたいと思った」と話していました。

平成30年9月8日



結城一高

結城二高

鬼怒商業



洞窟から救出された少年たちと

6月23日にサッカー少年ら13人が行方不明となり、遭難から18日後に無事救出されたタイ北部のルアン洞窟も訪れました。メーサイ校の生徒6人も含まれ、救出後に出家、修行から戻ったばかりの少年たちとも直接会うことができ、遭難時の気持ちなどを質問しました。



メーサイ校

パタヤピタヤコム校

